

外国語活動におけるローマ字を活用した言語活動の検討

教科教育高度化分野 (20821017) 小 野 瑞 姫

2020 年度より 3・4 学年での外国語活動が完全実施となり、言語活動を通してコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成が求められている。3 学年では、ローマ字を学習し、アルファベットでの読み書きができるようになるため、ローマ字で自分の伝えたいことを表し友達と尋ね合う言語活動について、授業実践を通して検証した。ローマ字を書くことへの苦手意識の増幅も見られたが、言語活動の充実が児童のコミュニケーションへの意欲を高めたり、4 技能へ意識を向かわせたりするという成果が得られた。

[キーワード] 小学校外国語活動, 言語活動, ローマ字, コミュニケーション, 4 技能

1 問題と目的

(1) 問題の所在

平成 29 年度告示小学校学習指導要領では、これまで高学年で行われていた外国語活動が中学年に引き下げられ、「聞くこと」「話すこと」による言語活動を通してコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成が目標として掲げられている。今回の改訂において、外国語活動及び外国語科では小学校から高等学校まで一貫して「言語活動を通して」という文言が盛り込まれた。これまでも各教科等では、記録、要約、説明、論述、話し合いといった言語活動の充実が図られてきた。しかし、外国語活動及び外国語科における言語活動は、他教科等における言語活動よりも基本的であり、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。したがって、外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語活動かというところではなく、言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている(『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』)。

これを踏まえると、外国語活動の学習が始まったばかりで、受容・発信単語も少ない小学校 3 年生の児童にとって、考えや気持ちを伝えあう言語活動を行うことは非常に困難であると考えられる。しかし、筆者の先行研究(2020)より、小学校 3 年生の児童には、外国語活動が始まる前の小学校 2 年生の頃から英語学習に対して高い動機づけがなされているということが分かっている。児童の高い動機づけを維持し、かつ児童の少ない語彙で言

語活動を充実させていくことが、小学校 3 年生の外国語活動の指導における大きな課題であると考えられる。

(2) これまでの研究

筆者はこれまで、小学校低学年までの学習レディネスをもとに円滑に外国語活動の学習に取り組むことができる小学校英語教育スタートカリキュラムの編成について研究を進めてきた。研究の中で 2 つの公立小学校 2 年生にアンケートを実施し、そこから以下のようなことが明らかになっている。

- ① 小学 2 年生の約 8 割の児童が、外国語学習に対する統合的動機付けが高められており、特に「話すこと」への関心が高い。
- ② 小学校低学年における生活科・国語科と外国語活動における学習指導要領の記述内容を比較すると、外国語活動の目標における「自分のことや身近で簡単な事柄」について「相手に配慮しながら伝え合う」ということにつながる内容が、生活科・国語科で扱われている。

このような児童の学習レディネスを踏まえ、他教科とも連携し、児童の実態に沿った効果的なカリキュラムを構成していくことを提言した。

(3) ローマ字と英語教育に関する先行研究

ローマ字と英語教育に関する先行研究では、英単語の読み・書きに関するものが多い。松浦(2005)は、それまでの先行研究から英単語の読み書き能力とローマ字知識との間には強い相関関係があるとし、英語学習入門期におけるローマ字処理及びローマ字知識が英語の読み能力を高め、英語学力を押し上げたとしているが、ここでいう入門期と

は、中学校を指している。小学校での先行研究では、本田・小川・前田(2007)がローマ字指導と英語活動の連携についてまとめている。本田らによると、小学校5年生の児童は国語の時間において学んだローマ字を通し、英単語を読むことに興味・関心を持つという。伊東(2013)も、ローマ字の活用について、「外国語活動における文字指導において、すでに子ども達が持ち合わせているローマ字の知識を活用しない手はない。(途中略)読むこと・書くことの指導が組織的に行われることを考えるならば、外国語活動の中でローマ字を活用することによってアルファベットへの慣れを醸造しておくことは小中連携の観点からも推奨されるべきである」と、当時外国語活動が行われていた小学校高学年と中学校との接続にも触れながら言及している。

(4) 本研究の目的

これまで、ローマ字の有用性については、英語を「読むこと」「書くこと」などの文字指導を中心に研究されてきた。しかし中学年で外国語活動ではあくまでも「聞くこと」「話すこと」の言語活動を行うため、文字指導としてローマ字を扱うことはできない。そこで本研究では、児童の小学校2年生までの学習レディネスをもとに筆者が作成した小学校英語教育スタートカリキュラムに基づいて、国語科のローマ字の指導との教科横断的指導を行った。国語科で習ったローマ字を活用し、外国語活動の中で本当に自分が相手に伝えたいことを書き表し交流することを通して、言語活動の充実が図れるかどうかの検討を研究の目的とした。

2 授業実践を通した児童の意識調査

(1) 方法

①対象

山形市内の公立小学校3学年1クラス26名

②手続き

授業実践の前に、選択及び自由記述による質問紙調査を行った。実践後、同じ質問紙によるアンケートを行い、KH Coderを用いた統計処理により児童の外国語活動に対する意識の変容を考察した。

※児童の自由記述内容を、一部表現の仕方を修正して統計処理を行った。

・「外国語(活動)」→「英語」

海外を表す「外国」や日本語以外の言語を表

す「外国語」と区別するため。

・「しゃべる」→「話す」

児童の記述内容から、「しゃべる」と「話す」には違いはないと考えられるため、「話す」に統一した。

(2) 授業実践

①教材と単元計画

光村図書『国語 三 上 わかば』ローマ字…4 単位時間

文部科学省 *Let's try!1* Unit5…3 単位時間

表1 単元計画

時数	内容
1. 国語	人の名前や土地の名前の1文字目は大文字で書くこと
2. 国語	拗音の綴り・長音の記号について
3. 外国語活動	好きな物を尋ね合おう ①好きなフルーツを尋ね合おう ②好きな食べ物を尋ね合おう
4. 国語	ヘボン式のローマ字について 促音の表記について
5. 国語	撥音の表記について
6. 外国語活動	好きなものを尋ね合おう ①好きなスポーツを尋ね合おう ②好きなキャラクターを尋ね合おう
7. 外国語活動	①ALTに好きなものを尋ねよう ②山形の好きな物を伝えよう

②外国語活動におけるローマ字を活用した実践

外国語活動では、1回の授業で2つのインタビュー活動を行った。1つ目は、*Let's try!1*に示されている言語材料を用いた活動である。2つ目はローマ字を活用したインタビュー活動であり、“What food (character) do you like?”に対する答えを、学習プリントにあるI like以降の4線の上にローマ字で記入したあと、インタビュー活動を行うというものである。単元の最後には、ALTとのTTで授業を行った。ここではALTの母国であるオーストラリアの文化に触れる異文化理解の活動の後、“What do you like from Yamagata?”というALTからの質問に対し、前時までと同様にI likeの後に続いて山形の好きなものをローマ字で4線の上に書き、発表するという活動を行った。

いずれの活動においても、児童にローマ字を使う必然性が出るように、回答に固有名詞が用いられるようなテーマ設定の工夫を行った。

3 結果と考察

(1) 外国語活動は好きですか。○をつけてください。

【実践前】

すき (57.7%) ・ ふつう (38.5%) ・ きらい (3.8%)

【実践後】

すき (77.0%) ・ ふつう (23.0%) ・ きらい (0.0%)

実践を通して、外国語活動を「好き」と回答している児童の割合が増加したことが分かる。

(2) 外国語活動(英語)の好きなところをたくさん書いてください。

KH Coder を用いて、児童の自由記述の内容を統計処理し、抽出された語の出現回数を、実践前と後で比較すると、以下ようになった。

表 2 外国語活動(英語)の好きなところの変容

実践前		実践後	
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
英語	33	好き	33
好き	15	英語	31
楽しい	13	楽しい	8
話せる	9	たくさん	6
外国	7	ゲーム	6
たくさん	6	覚える	6
数字	6	ローマ字	5

自由記述における「好き」の出現数が、実践後には倍以上にまで増えていることがわかる。ここから、ローマ字を活用した言語活動を通して、外国語活動を「楽しい」と感じる児童が増えたということが考えられる。また、実践後には、新たに「ローマ字」という語が出現するようになった。ここから学級の人数の約 20%が、ローマ字を使った学習を「楽しい」と感じているということが推測される。

(3) 外国語活動(英語)の苦手なところをたくさん書いてください。

(2)と同様に統計処理を行い、以下の表に示した。

表 3 外国語活動(英語)の苦手なところの変容

実践前		実践後	
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
覚える	13	書く	10
難しい	12	ローマ字	7
書く	9	難しい	6
話す	6	覚える	4
言う	6	話す	4
読む	4	へボン	3
ローマ字	3	小さい	3

まず、「難しい」という語の出現数が、実践を通して半減した。ここから、ローマ字を使った言語

活動を通して、児童同士のやり取りがより分かりやすいものとなり、「難しさ(い)」を感じさせなくなったということが考えられる。

次に、「書く」ことについてである。実践前後を比較すると、出現数に大きな差はないものの、一方で「ローマ字」の出現数が多くなっている。また、実践後の「へボン」はへボン式ローマ字のこと、「小さい」は、ローマ字の拗音と促音の表記のルールに関することから、児童の「書く」ことへの苦手意識はアルファベット自体にではなく、ローマ字のルールに関するものであるということが考えられる。

(4) 外国語活動(英語)でできるようになりたいことをたくさん書いてください。

【実践前】

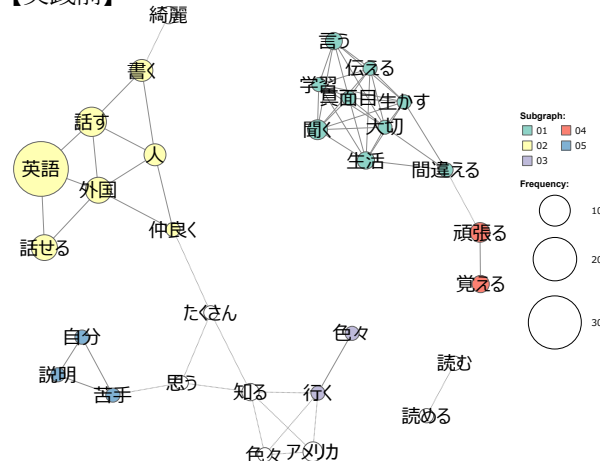


図 1 実践前の共起ネットワーク図

【実践後】

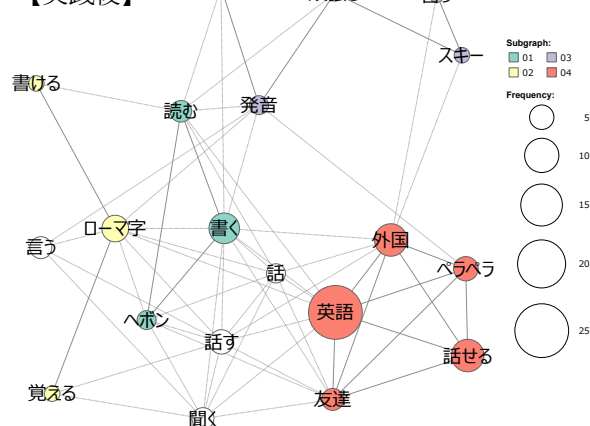


図 2 実践後の共起ネットワーク図

KH Coder を用いて統計処理を行い、児童の自由記述の内容を共起ネットワーク図に表した。

まず、「英語」と共起関係にある言葉の変容が見

られた。実践前は、「話す」ことだけが共起関係にあったが、実践を通して「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能すべてが共起ネットワーク図に出現した。ここから、ローマ字を活用した言語活動を通して、相手が話すことを聞いたり、アルファベットで書かれた言葉を読んだり書いたりしたいという気持ちが児童の中に醸成されたことがわかる。さらに、実践後、「友達」という単語が「英語」と同じサブグラフ内に出現し、「聞く」「話す」こととも共起関係にあることがわかる。ここから、実践を通して、英語を使って、友達とコミュニケーションをとりたいという意識が芽生えてきたということも考えられる。

4 まとめ

本研究では、小学校3年生の少ない英単語の語彙数でも、外国語活動における言語活動を充実させることを目的に、外国語活動と国語科におけるローマ字の教科横断的な指導を実践した。実践を通して、以下の成果が挙げられる。

①児童が外国語活動を「好き」「楽しい」と回答する割合が増加する

(1)(2)の結果より、児童の感じ方に大きな変容が見られた。ローマ字を使ったやり取りは、固有名詞を多く使うことから、会話の内容がわかりやすく、テーマも「好きなキャラクター」などを扱えるため、流行りの漫画やゲームのキャラクターについて友達と会話できることが「楽しい」と感じさせる大きな要因だったのではないかと考えられる。

②児童に4技能への意欲が芽生える

(4)の結果より、実践後は「英語」と4技能全ての間に共起関係が出現した。ここから、ローマ字を活用した言語活動を通して、中学年の外国語活動において、文字を指導せずとも「読みたい」「書きたい」という意欲を高めることができるということがわかる。授業実践を行ったクラスでは、指示がなくとも自分の名前をローマ字で書こうとしたりする児童が多く、書くことへの興味・関心が高い様子が見られていた。国語の授業以外にもローマ字を書く活動を設定することで、国語科の視点からローマ字の習得を目指すことができるほか、外国語活動の視点からは、文字を使った活動に慣れ親しむことができると考えられる。

③英語で友達と関わりたいという意欲が増す

(4)の結果より、児童のコミュニケーションへの意欲が高まっていることがわかる。ローマ字を活用した活動は、児童にとって理解しやすいものであるとともに、「伝えたい」という意欲が伴う意味のあるコミュニケーションとなった。小学校3年生の少ない語彙力でも、外国語教育における「言語活動」が実現している姿であると考えられる。

5 今後の展望

成果として児童の4技能への意欲の高まりが挙げられるが、(3)の結果より、ローマ字のヘボン式表記や撥音、拗音等のルールを覚えることについて「難しい」と感じている児童もいるため、外国語活動において無理にローマ字の指導を行うことは好ましくない。また、ローマ字の多用はいわゆる「ローマ字読み」を引き起こす要因であるという懸念も念頭に置かなければならない。小学校3年生でローマ字を学習してから高学年での外国語科が始まるまでの2年間で、いかにローマ字から英語へとつなげるかを今後の研究課題としたい。

主な引用・参考文献

- 本田勝久・小川一美・前田智美(2007)「ローマ字指導と小学校英語活動における有機的な連携」、『大阪教育大学紀要第V部門』, 第56巻, 第1号, pp. 1-15.
- 伊東治己(2013)「外国語活動における文字の扱い再考ー文字を使つての指導と文字指導を区別しようー」, 『鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要』, 第4号, pp. 27-38.
- 松浦伸和(2005)「入門期におけるローマ字力と英学力の関係」, 『日本教科教育学会誌』, 第28巻, 第2号, pp. 81-89.
- 光村図書(2020)『国語 三 上 わかば』.
- 文部科学省(2017)『*Let's try!1*』.
- 文部科学省(2018)『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』.
- 小野瑞矩(2020)『小学校英語教育スタートカリキュラムの開発』(山形大学地域教育文化学部卒業論文).

An Examination of English Language Activities Using Roman Characters at Elementary School
Mizuki ONO